



# Close up だて



伊達市出身の菊地裕太郎弁護士

## 故郷があってこそ —平成30年4月から 日本弁護士連合会会長に就任—

きく ち ゆう た ろ う  
**菊 地 裕太郎さん**  
(東京在住)



幼少期の菊地弁護士（2列目右端）



旧校舎（昭和33年撮影）

**私**は、伊達市長和町（当時「伊達町字長流」）に1951年5月5日に生を受けました。長流小学校、長和中学校（今は廃校）を卒業し、函館ラ・サール高等学校（1期先輩が菊谷市長です）に進学しました。一浪して東京大学法学部に入學し、卒業後2年間の司法修習を終了し、1981年東京弁護士会に登録しました。

当時学校は運動が盛んで、もっぱら野球・陸上・柔道に精を出していました。勉強も人一倍やっただと記憶しています。先生方との濃密な空気感は一生涯消えませんが、田舎者のコンプレックスは弁護士になるまで心の片隅に巣食っていたような気がしますが、社会に出るとかえって、故郷のある田舎の心象風景は大いなる強みであり励みになりました。

管理人に任せである空き家の実家に帰郷するのにもままならなくなっていますが、我が故郷の子ども達が、恵まれた自然環境の中で心身を鍛え、自信をもって社会に巣立つことを期待しています。

私も伊達市民の誇りを胸に、2年間の職責を全うし、帰郷することを楽しみにして頑張りたいと思います。

※今回、お忙しい中、伊達市のためならと菊地弁護士からご寄稿いただきました。

### 表紙のはなし



3月15日、大滝保育所の卒園式に伺いました。所長先生から保育証書を受け取った卒園生の3人。4月からはピカピカの1年生です。お父さんお母さんに感謝の言葉を伝えたときの表情は、もうすっかりお兄さんお姉さんでした。ご卒園おめでとうございます。

### 楽 画 記

■皆さんは、健康のために何かやっていることはありますか？最近、健康について考えていて「まだ若いから…」とか「もう歳だから…」と言いがちですが、年齢は関係ないと思いました。私はやっぱり食生活が一番重要だと思います。今の食生活を見直して、伊達野菜のスムージーを飲んで、健康になりたいと思います。(り)

■4月は新しい環境への期待や不安など何だか落ち着かない季節ですね。自席から見ると有珠山は雪解けと共に茶色の山肌が見え始めました。これから少しずつ増えていく緑色など、色の変化に季節の移り変わりを感じながら心穏やかに…といきたいのですが、人事の移り変わりが気になりこの時期はやっぱり落ち着きません。(や)

■年度が変わり、また新たな1年が始まります。4月は出会いあり・別れあり、新しく挑戦するには区切りのない時季ではありますが、動めていると何となく日が過ぎていき、「あらもうこんな季節！」ということも。今年もどんな一年にしたいか、どう過ごすかを考えようと思うものの…。皆さんはどんな一年を過ごしたいですか。(と)